

社会福祉法人
読売光と愛の事業団
〒100-8055
東京都千代田区大手町1-7-1
Tel 03-3217-3473
Fax 03-3217-3474
<https://www.yomiuri-hikari.or.jp/>

読売新聞グループの社会貢献事業の中核を担う読売光と愛の事業団が2021年8月、創立50年を迎えました。障害者の支援から始め、今では災害救援募金や奨学金、医療支援、老人施設運営まで幅広い活動を展開しています。主な活動内容を紹介します。

事業団の主な事業内容 子ども、障害者、被災者らを支援

助成事業

郡司ひさる奨学金基金

児童養護施設などから大学や専門学校に進学する学生に返済なしの奨学金年間30万円を支給しています。1997年に子宮がんのために67歳で亡くなった郡司ひさるさんの寄贈遺産4億円を基金としてスタートし、21年度で24回目の募集となりました。当初は返済なしの奨学金はまだ珍しく、その後様々な団体が同様の奨学金を設けるモデルになりました。毎年10人程度を新規募集し、これまで257人に総額3億2000万円を支給しました。

子ども育成支援事業

「子どもの貧困」が社会の大きな関心を集めるようになり、18年度から子どもたちが健やかに育つような活動をしている団体に助成をしています。毎年夏に全国から公募し、子ども食堂やフードバンク、学習支援、子ども図書館など様々な分野から10団体程度を選んで支給しています。

被災者救援のための義援金募集

国内外で大規模自然災害が起きた場合に、読売新聞社とともに義援金への協力を呼びかけています。集まった義援金は全額、被災地の自治体に送金します。寄付者のお名前などは読売新聞の地域版に掲載しています。

被災地の福祉団体など支援

東日本大震災や熊本地震などの大規模自然災害で、被害を受けた福祉施設や被災者を支援する団体などに助成をしています。

運営事業

読売アイバンク

亡くなられた方の善意を生かし、角膜を必要とする方に移植して光を取り戻す橋渡しをしています。献眼は都民の方が対象で、登録者は約2万4000人。



読売アイバンクの登録カード（見本）

生き生きチャレンジ事業

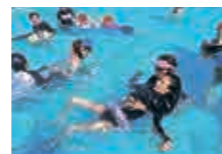
障害者の自立を支援しようと、障害者が働く福祉作業所の工賃・賃金アップに向けた取り組みを支援しています。毎年秋に全国から公募し、機器や車両の購入や改装費などの設備投資費に助成しています。21年度はコロナ禍で経営に苦しむ福祉作業所を支援するため、全国コロナ医療福祉支援基金に寄せられた寄付金のうち1000万円を充てました。



助成金で惣菜用のホットショーケースを購入した東京都青梅市のなかま亭（2021年助成）

在宅の重症心身障害者支援

在宅の重症心身障害児・者や家族への支援が十分でないことから、18年度から、社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会を通して、同会と連携する親の会の支部の活動費用を助成しています。



親の会神奈川支部が助成を受けて開催した交流キャンプでのプール遊び（2018年助成）

障害者



朗読グループの音声データ編集作業

がん患者在宅療養支援事業

進行がんなどのがんの患者やその家族を支援するボランティア団体が対象です。20年度にスタート。全国から公募し上限50万円の助成金を支給しています。

その他

顕彰事業

読売療育賞

重症心身障害児者施設の療育改善のため、重症心身療育学会学術集会で発表される実践研究の中から、優れた施設を顕彰しています。副賞として4施設に総額140万円を贈り、研究に役立ててもらっています。



読売療育賞の最優秀賞に選ばれた「西部島根医療福祉センター」の視線入力装置を使った研究（2019年）

読売福祉文化賞

読売新聞社と共催で、21世紀にふさわしい福祉活動に取り組む団体や個人を顕彰しています。公募で集まった中から、一般部門、高齢者福祉部門でそれぞれ3団体を選び、副賞として各100万円を贈呈しています。22年度に20回目を迎えます。

3つの高齢者施設運営 安心の老後 支える 個室で看取り対応



事業団は、超高齢化が進む社会に貢献するため、川崎市多摩区で三つの高齢者施設を運営しています。特別養護老人ホーム「よみうりランド花ハウス」を2005年、遊園地よみうりランド近くに開設しました。150床（他に短期入所10床）の入所部門は全室個室で、これまでに約900人が入所し、12年からは看取りに対応しています。「死は日常のケアの延長線上にあり、最期までその人らしい人生を全うしていただく」との理念のもと、これまで計312人（2022年1月末現在）の方々が施設で看取られました。坂口隆志・副施設長兼介護長は「人生の最終盤を安心して暮らしていただけるよう温かみのある個別ケアを心掛けています。職員自身が『身内を預けたい』と思える施設にしていきたい」と話しています。

通所部門（デイサービス）、地域包括支援センターを併設、地域の高齢者福祉増進の中核を果たす一方、12年には、多摩区内に地域密着型の小規模特養「すみれ館」（34床）を開設し、地域に特化したケアも展開しています。

14年には花ハウス近くで別法人が運営していた介護老人保健施設「よみうりランドケアセンター」を統合しました。入所部門150床全てが個室。在宅復帰、機能改善を目的としリハビリを展開し、03年の施設開所以来の利用者数は、入所と通所部門（デイケア）合わせて約1800人にのぼります。

入所部門を統括する北角智美介護長は「ご利用者様の笑顔と『ここにきてよかった』という言葉が私たち介護職の心の支えです。今後もご利用者様、ご家族の思いに寄り添っていきます」と話しています。

今年度から川崎市北部エリアのリハビリ拠点施設として市の指定を受け、医療機関と在宅をつなぐ中間施設としての役割を果たす一方、看取りにも対応。社会のあらゆる要請に応えられる体制を整えています。加えて訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所も併設、両部門の利用者は発足以来1300人を超えています。

事業団は、超高齢化が進む社会に貢献するため、川崎市多摩区で三つの高齢者施設を運営しています。

特別養護老人ホーム「よみうりランド花ハウス」を2005年、遊園地よみうりランド近くに開設しました。150床（他に短期入所10床）の入所部門は全室個室で、これまでに約



新型コロナウイルスのワクチンの接種を受ける入所者（2021年4月、花ハウス）。

音訳ボランティア養成講座開催——大阪支部

事業団には、東京本部のほか、大阪、西部、中部、北海道の4支部があります。寄付金の受け付けや寄付者の紙面掲載のほか、地域のニーズに合わせて事業を展開しています。

大阪支部では、視覚に障害がある人たちに新聞や小説などの活字情報を音声で伝える音訳ボランティア養成講座を、日本ライトハウス情報文化センターの協力を得て毎年開催し、多くのボランティアを福祉の現場に送り出しています。

講座修了者は、事業団が運営を支援する団体「読売朗読ボランティア」のメンバーなどとして、録音図書制作をはじめ、中途失明者生活訓練施設での依頼図書の朗読、障害者支援施設での読み聞かせなど、幅広い分野で活動しています。



大阪支部主催の読売音訳ボランティア養成講座

ご寄付のお願い

事業団の活動は、ご寄付によって支えられています。「子ども育成支援」「児童養護施設出身者の奨学金」「被災者支援」「視覚障害者支援」「コロナ」など使途の指定も出来ます。郵便振替の用紙に使途を記載してください。寄付金は税控除の対象になります。皆様のご協力をお願いします。

- ◆郵便振替
加入者名：読売光と愛の事業団 00100-8-127485
- ◆銀行振込
口座名：福) 読売光と愛の事業団
三井住友銀行 銀座支店 普通7035840 (振込後、電話で)
三菱UFJ銀行 東京営業部 普通4634178 (連絡をお願いします)
- ◆クレジットカード
事業団ホームページの決済フォームから「VISA」「Master Card」「JCB」「アメックス」「セディナ」がご利用できます。領収書の発行は申し込みから2か月後になります。
- ◆J-Coin Payの「ぼちっと募金」
みずほ銀行のスマートフォン決済アプリで、少額から募金が出来ます。ご利用にはJ-Coin Payアプリのインストールが必要で

主な寄付方法

遺贈のご相談をお待ちしています

遺言書に基づき、遺産の全部あるいは一部を特定の団体や人に贈ったり、寄付したりすることを「遺贈」といいます。

遺言による相続は、民法が定めている法定相続の規定よりも優先され、遺産の受取人やその内容を指定することができます。

財産の一部またはすべてを社会福祉法人である当事業団に遺贈される場合は、社会福祉に役立てることができます。またその財産の持つ価格に対して相続税はかかりません。

遺贈内容の検討や遺言書の作成に際しては、弁護士、司法書士、税理士、信託銀行などの専門家にご相談されることをお勧めします。遺贈をお考えの方は、まずは事業団にご連絡ください。